

布引尾根

3/28-29

今野桂子

3月28日(土) くもりのち晴れ
 六日町駅で1時間半程仮眠、駅前のタクシー会社(?)に声をかけ、一路夜の明けた清水へ。バス停で下車(3,620円)除雪のきれた所でスキーを付けていると近くの家の人から「昨日雪が降ったこと、兎平に小屋がある...」等々、親切に話してくれた。柄沢川にかかる橋を渡る。そこから登川の川床に入る。今年日雪が多く一面雪原。どこでも行ける様子だが、少し湿った雪で、しばらくラセルして進むと、くつのうらにつき、雪のゲタになってしまう。
 締具の足をのせる部分にガムテープを巻いた小森宮氏「雪がつくのを少し防げる」とか、みんな雪を取るのに、なん度も立ち止る。当方、締具のセフトーが、あますぎた事もあるが、くつの下にみり込んだ雪が「テコ」となり、スキーが「はす」れる。(おち様、入山前の稜線は、わすれないうち、反省その1) 733地点の少し手前で、休み。丸の沢出合でも20分程休む。この沢は、次の山行で滑るとか、なかなか滑りこたえがありそう。少し進むと谷が狭まる。えん提にぶつかる。左側(下流から見て)より、トラバスを考えるが、3イセバーン化しているので

スキーをザックに取りつけ、キックステップで左岸に取りつく。急斜面を登りきた所で、スキーを付けトラバスキギみに前進。途中少し電光石火に登ってヒキ倉沢の所に出る。沢に滑り込み、今度は3イセンを付けて胸のつきそう急斜面を兎平に登る。巡視小屋は黒ぬい立派な小屋だった。送電線の下、大鳥帽子、清水峠を見ながら歩くが、無風状態で真上から照りつける太陽の為、まるでフライパンの中を歩いているようだ。沢を右下に見るが、降りる機会をつかめない。左側を少し登りぎみに進む。テフりは大きなものはないが、2-3個雪だぶりが落ちて来ている。沢を登った方が...と云う事になり、ナルミス沢に滑り込む。この3になると全体的に脱水状態。休む回数も多くなる。足がなんとも重い。ペースをゆっくりにしても、「ああ、あーい」といって心の中で、わめきながら登る。稜線直下は又、スキーをザックにつけ、キックステップで登る。15:00 稜線にとび出る。今日の苦勞がふきとんでしまう素晴らしいなめ!! 「えびのしほ」をしきめた様な尾根をキツキツと3イセンを鳴らしながら最後の力(?)で登る。16:35 大鳥帽子のピークに立つ!! これはもう... (無言) !! ピーク直下は急斜面なので少し下って、ややゆるくなった所から滑り出す。今日の最初にして最後、壮快な滑りだった。滑り終えた地点にツェルトを設営した。

3月29日(日) 快晴
 3イセンをつけて出発。風はおたやかで、快適な登りではあるが、せせ尾根の所もあるので、心を引きしめてのぼる。布引山まで上り下りを、くりかえす(小森宮氏だけ小鳥帽子より滑る)が、これ以上の展望はないと云える程の素晴らしいなめ。それだけで、満足な思いになる。布引山では、1時程の大休憩。いよいよ、スキーを付けての滑り。フィルムクラフト(?)された斜面を滑り、雨ヶ立岳へ(スキーを引っぱって)ここからの尾根は、快適なもの。途中より雪負がかわり、急斜面の林の中は、もたつきながら滑る。初沢の上の広い雪原をぬけ、夏道にはぼそって観測所につく。林道は途中まで滑るか。そのスローさに、ツールをつける者、スキー3イセンを付ける者と、人それぞれ、雪の消えた所から約10分程で宝川温泉に下山。スキー00会の名のごとく、露天風呂で汗を流して、帰路につく。

- 914
 ・清水 6:30 - ヒキ倉沢 11:10 - 稜線 15:00
 大鳥帽子 16:35 - 幕営地 17:10
 ・出発 7:40 - 布引山 8:45/9:35 - 雨ヶ立岳 9:55/10:10 - 1160m 10:55/11:20 - 観測所 11:40/12:10 - 宝川 15:00
 X=バー: L小森宮、伊藤碩、長谷川、今野